

はじめてのメンバーも参加

■4月20日21日、さんさカフェ周年応援ツアーが企画され28人の方達が参加しました。今回の企画は、今までに支援に参加した方だけでなく、行ったことの無い方達にも、ぜひ現地の実情を知っほしい。という企画でした。



- 全統一労組前を出発したバスは一路南三陸へ、初参加(知らない顔も多く)途中の車内では、自己紹介とともにこれまでの支援活動のDVDや本の紹介などをしながら交流がすすみました。
- 支援に行った人も、初めての人でも現地の復興がどうなっているのか、それぞれの思いを乗せてバスは走ります。



車内では炊き出しのDVD  
や本の紹介も



■バスツアーの行程は

- 1日目  
行場商店見学・ベイサイドアリーナ交流会
- 2日目  
リッチー訪問(アメリアさんのお店)  
志津川中学  
防災庁舎  
志津川高校  
さんさカフェ訪問  
さかなのみうら  
でしたが、残念なながら満開のさくらとみぞれを同時に眺める悪天候で、屋外での活動が制約されました。

## 行場商店の社長から説明を受ける

■行場商店は海を目の前に立地する水産加工会社、外国人研修生も受け入れていたが、震災時は直ちに避難して犠牲者を出さなかった。地震保険加入していたまれな例で、いち早く再建はしたけれど、海は目と鼻の先。再開できる広さの土地はここにしか無かった。という社長の説明。



## 途中合流者も含めて夜の交流会

■確かに瓦礫は無くなってはいたけれど、本当に何もないだけの町の跡を目にして、それぞれの感想や思いを語った交流会。途中参加者も合流。偶然大坂から旅行にきていた、家門さんご夫婦も、レンタカーで合流。第二日目の地元の方達との交流に思いをはせる。

## さんさカフェでは内田さんのお父さんから

■隣町の仮設からさんさカフェに通う内田さんのお父さん「いま南三陸には買い物からなにから、生活に必要なものが何もないんです。やっと再建計画が出れば岩盤や遺跡があったりで、5年くらいはだめなのでは、もう年だし、本当にこの町に戻ることができるのだろうか」復興は見えていないと言う悲しい現実でした。



## アメリカさんのお店リッチーにて

■仮設の入り口でお店を開いた  
アメリカさん被災時の出来事  
や同僚への援助活動など、参  
加者一同が深く心に刻むお話  
でした。ありがとうございます。  
もともとこの頃から、外は本  
格的な雪に変わりました。



- さんさカフェを去る頃になっ  
てようやく天候も回復、散策  
できなかったのが心残り。
- 最後はさかなのみうらへ避難  
所時代から食材の提供をして  
くれた三浦社長、大量頒のたこ  
のイラストによく似た方です。

最後はさかなのみうらへ

7月27日(土)28日(日)

第二回南三陸ツアーを計画

しています。

今回いけなくて残念だ。参加してみ  
てはじめて現地のことがあった。  
そんな声を受けて第二回バスツアーを  
計画しています。今から予定を入れて  
ぜひ現地の状況を見、話を聴くツア  
ーに参加してください。家族連れ参加  
歓迎です。

